

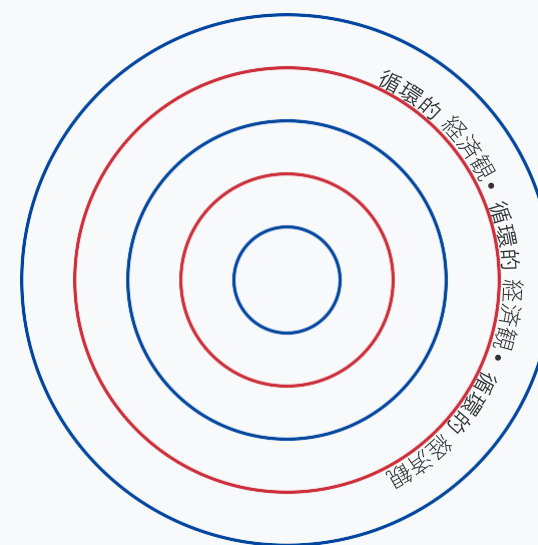
宗旨に現れた循環的経 済観

大巡思想の循環性の原理および経済学的意義に関する学術発表

発表者：[氏名] | 日時：2025年6月22日

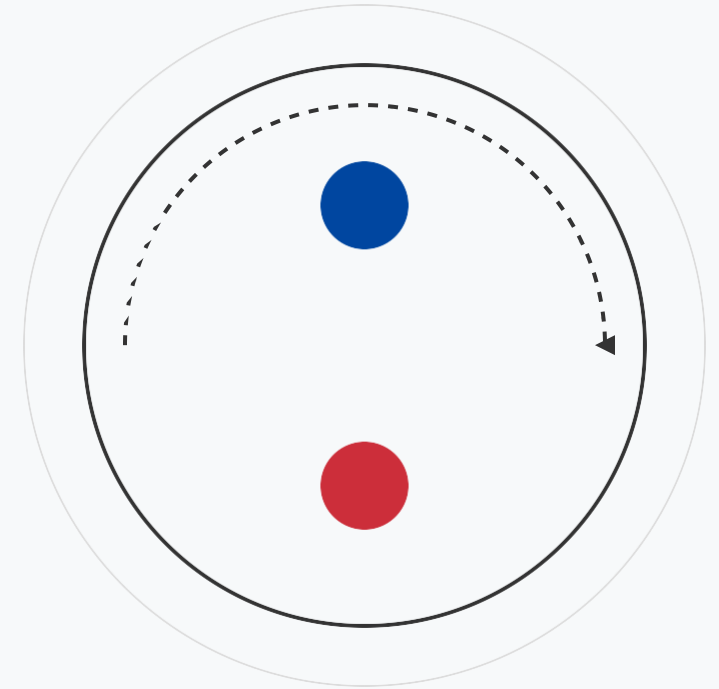
目次

- 1 序論および概要
- 2 易(易)と大巡思想の循環的世界観
- 3 東西の循環理論の比較
- 4 陰陽五行の科学性
- 5 易の循環の5つの形式
- 6 待対(待對) — 陰陽合徳
- 7 流行(流行) — 道通真境
- 8 中和(中和) — 解冤相生
- 9 回帰(回歸) — 神人調化
- 10 螺線(螺線) — 甌山の原理
- 11 経済思想との関連性
- 12 結論



1. 易(易)と大巡思想の循環性の概要

- 大巡思想は「円(圓)」と循環を核心原理とする
- 無極(無極)、太極(太極)、大巡(大巡)、そして天地の道と経済に循環の論理が統合されている
- 円形的循環性は東洋および大巡思想の隠された重要な原理である
- 宗教的・哲学的思想を超えて経済観にも影響を及ぼす核心的思想体系である



大巡思想の円形的循環性の概念図

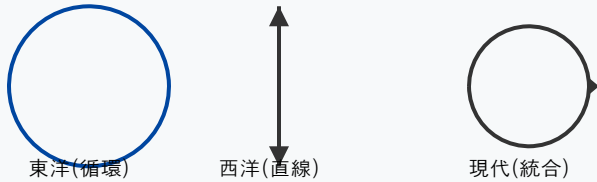
2. 東西の循環理論の比較

- 東洋：全一的(全一的)循環 — 陰陽五行によって物質全体の循環を把握する
- 西洋：減算的(減算的) / 還元論的アプローチ — 物質の最小粒子を
- 探し出す研究。ラッセルのパラドックスとゲーデルの不完全性定理：循環論理の科学性を証明

現代科学：複雑系科学を通じて循環的思惟の価値を再発見

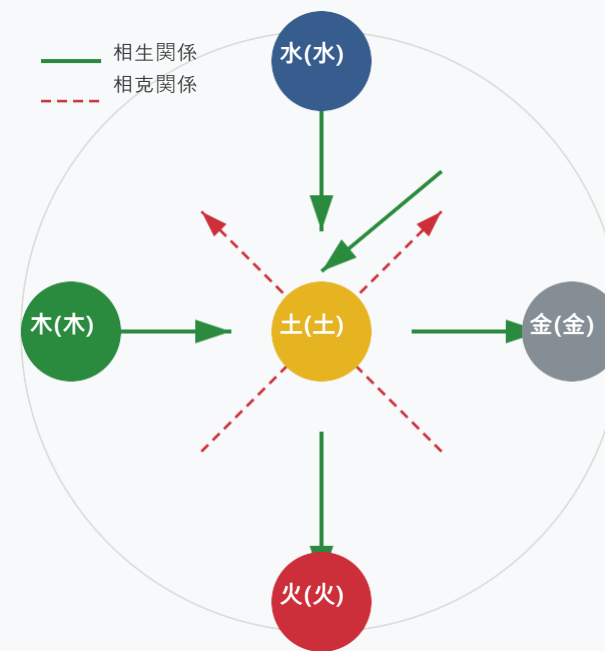
区分	東洋思想	西洋思想
アプローチ方法	全一的循環	還元主義的
思惟方法	物質の結合と循環の分析	最小粒子の追求(減算的方法)
発見体系	陰陽五行 周易 64卦	原子論 幾何学的証明
現代への接木	複雑系科学 自己組織化	不完全性定理 循環論理の受容
経済観	循環・共生経済	線形・成長経済

東西の循環理論の特徴と現代的接木



3. 陰陽五行の科学性

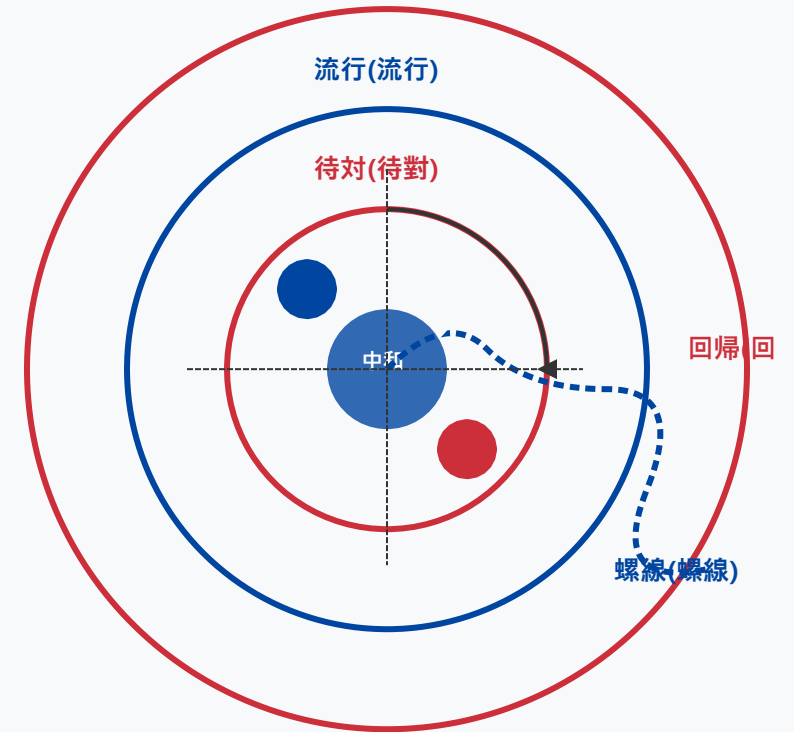
- 五行は相克相生の最小体系として証明される
- 相克—相生の関係が最低一度ずつ現れうる数のうち、奇数は5、偶数は8である
- 東洋の五行、八卦が循環論理の原型であることが数学的に証明される
- 現代の複雑系科学において、陰陽五行は還元主義科学が発見できない創発的な科学方法論として活用される
- 韓医学(『黄帝内経』)と中国の主要な発明品は陰陽五行に基づいている



五行(五行)の相生(相生)と相克(相克)の関係図

4. 易の循環の5つの形式

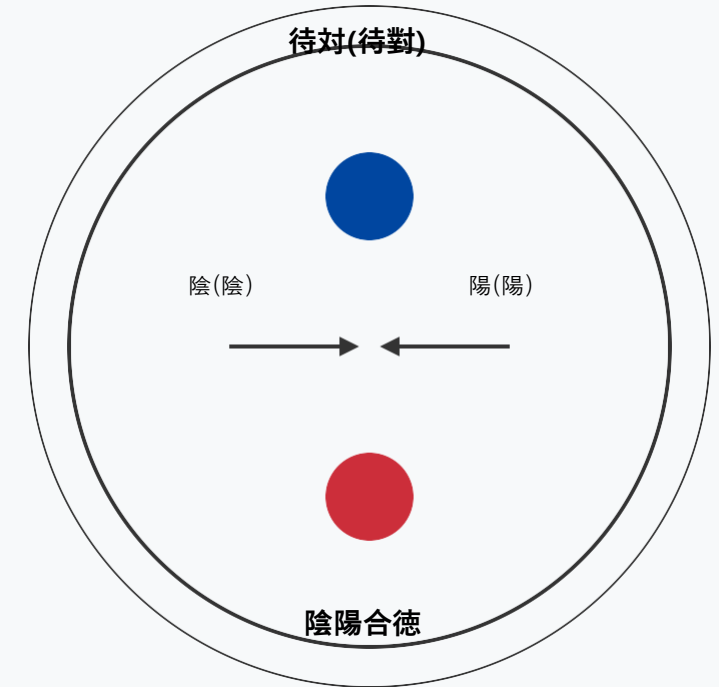
- 待対(待對) — 陰陽の対立と調和、差異を通じた完全な存在の形成
- 流行(流行) — 春・夏・秋・冬の循環、陰陽の力動的な動き
- 中和(中和) — 中心から周辺の陰陽を調和させる作用
- 回帰(回歸) — 循環を維持させるフィードバック(feedback)、還元作用
- 螺線(螺線) — 単純な円運動ではなく、成長する螺旋形の発展様相



易(易)の5つの循環形式と相互関係

5. 待対(待對) — 陰陽合徳

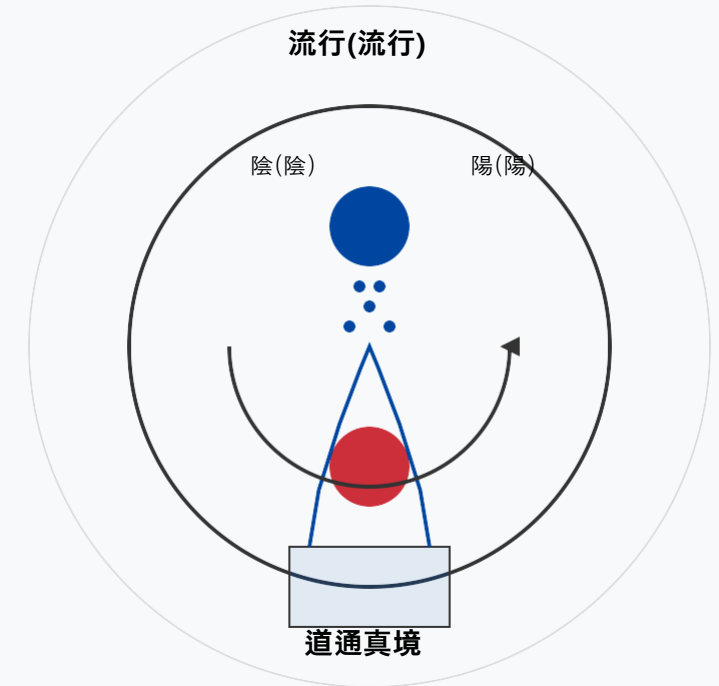
- 待対(待對)：互いに向き合って待つという意味
- 陰陽合徳(陰陽合徳)の意味
 - 「合(合)」：陰と陽が互いに適合する
 - 崩れた待対性を回復し、天地の恵沢を創造する
- 正陰正陽(正陰正陽)、陰陽相生(陰陽相生)、陰陽調化(陰陽調化)はいずれも陰陽の待対性を強調する
- 経済思想との関連では自由至上主義として現れる



待対性(待對性)と陰陽合徳の図式化

6. 流行(流行) — 道通真境

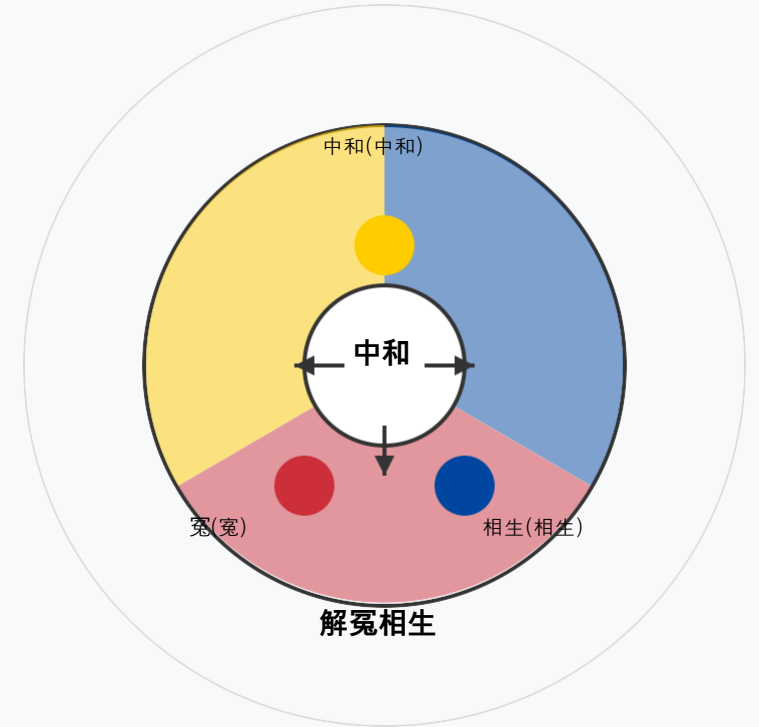
- 流行(流行)：待対(待對)が循環の停止形態であるならば、流行は循環の動(動)的な形態である
- 大巡思想において万物は輪廻あるいは流行し、年月日時はそれぞれ小さな輪廻が大きな輪廻の土台となる
- 中国の太極と噴水の原理で表現される流行性 — 陰が極に至ったとき陽が生じ、陽が極に達したとき陰が生じる
- 道通真境：陰陽の均衡が取れ、神人調化と解冤相生を経て永遠に循環しうる状態
- 経済思想では共同体主義として表現される — 陰陽が均衡を成して循環が実現する動き



流行(流行)と道通真境の循環原理の図式化

7. 中和(中和) — 解冤相生

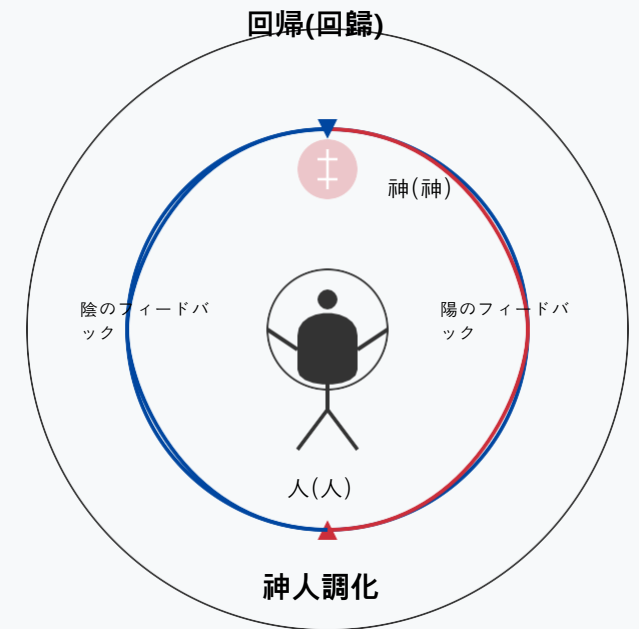
- 中和(中和)：中心から周辺の陰陽を調和させる作用
- 「中(中)」は真ん中、「和(和)」は真ん中から周囲と調和する
- 解冤相生(解冤相生)の意味
 - 解冤：陰陽の不均衡によって生じた冤(冤)を解きほぐす過程
 - 相生：後天世界の新たな支配原理、もはや怨望が生じない状態
- 人間は精神と肉体という陰陽をともに有する唯一の存在として、中和作用の主体である
- 経済思想としては功利主義として表現される — 陰陽が均衡を成して共同の利益を追求する



中和(中和)作用と解冤相生の原理

8. 回帰(回歸) — 神人調化

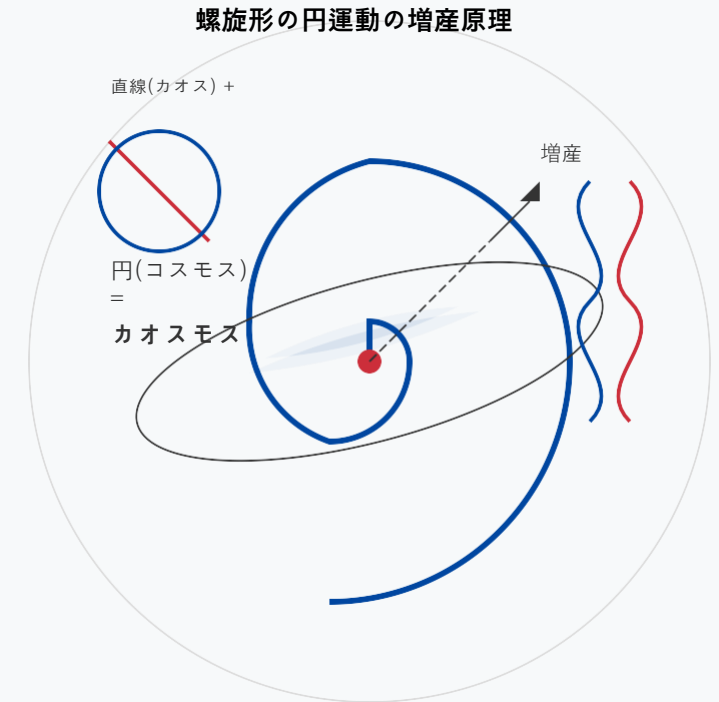
- 回帰(回歸)：循環の外部から循環を維持させるフィードバック(feedback)作用
- 大巡思想における恩恵と척(隻)の関係 — 恩恵を返さなかったり循環を妨げたりする運動は척(隻)となって自分に戻ってくる
- 神人調化(神人調化)：精神と肉体(陰陽)を同時に有する人間が神と調和し、自己組織化を成す
- 人間は神人調化を通じて神明と一体化した人尊として、成事在人(成事在人)の境地に至る
- 経済思想では社会契約主義として表現される — 陰陽が循環するように規律を守ろうとする動き



回帰(回歸)のフィードバック過程と神人調化(神人調化)の概念

9. 螺線(螺線) — 甌山の原理

- 自然界の循環運動は単純な円運動ではなく螺旋形(螺線)の円運動である
- 複雑系経済学：収穫逓減ではなく収穫逓増の法則を仮定する
- 螺旋運動は複雑系の超越作用を通じて限界逓増し、万物を増産(増産)する
- 銀河系、DNA、原子と電子など、自然界の直線運動は結局のところ螺旋運動である
- 大巡(大巡)は停滞した万物を循環させ、大きく回りながら成長させる原理である



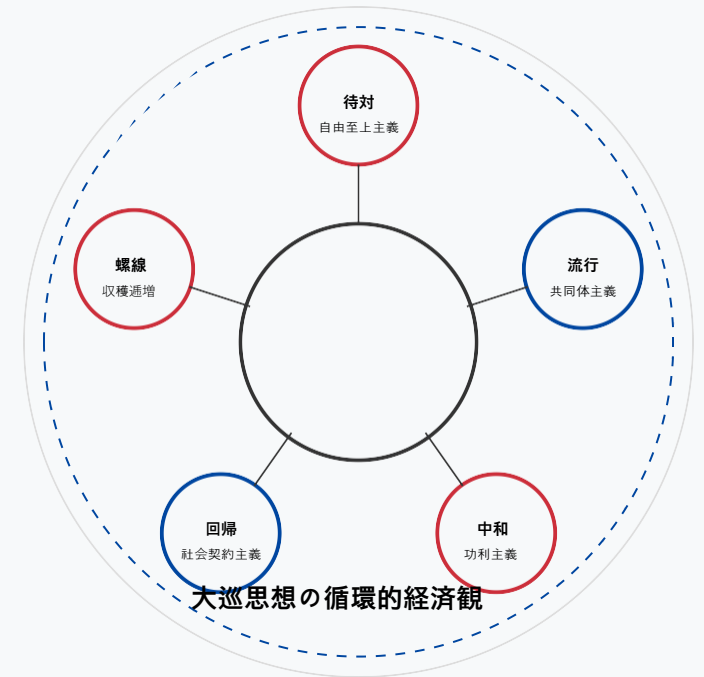
自然界の螺旋形運動と増産(増産)メカニズム

10. 結論および経済思想との関連性

- 大巡思想の循環的経済観は東洋の易(易)の循環思想に基づく
- 易(易)の循環の5つの形式的特性と経済思想との関連性

循環特性	大巡思想の原理	経済思想
待対(待對)	陰陽合徳	自由至上主義
流行(流行)	道通真境	共同体主義
中和(中和)	解冤相生	功利主義
回帰(回歸)	神人調化	社会契約主義
螺線(螺線)	増産(増産)	収穫逡増の原理

- 循環的経済観は複雑系経済学の収穫逡増の原理と接している
- 大巡思想の循環原理は現代の経済危機の代替的パラダイムを提示する



易(易)の循環の5つの特性と経済思想との関係